



9月4日

日曜日

発行所

山陽新聞社

岡山市北区柳町2-1-1

新聞製作センター

岡山市北区新屋敷町1-1-18

カラグループ

バナナ追熟設備増強

処理量1.6倍、全て自社で

青果卸を中核事業とするカラグループ(倉敷市西中新田)は、バナナの追熟加工設備を増強した。処理量を従来の1.6倍に高め、一部外注していた追熟加工を全て自社で行える体制が整った。

バナナは植物検疫法上、緑色の未熟な状態のままフィリピンなどから輸入。商社や荷受会社などが「室」と呼ばれる設備で追熟させる。同グループは、年間約4800トのバナナを県内の量販店などに販売。このうち6割を自社で追熟し、残りは商社から加工済みのものを購入していたが、品質向上やコストダウンなどを狙いに増

強を決めた。

新設備は756ケース(計9・8ト)を収容できる室7棟。倉敷地方卸売市場(倉敷市西中新田)にあった旧設備の室16棟のうち、老朽化した12棟を取り

食と農

果荷受組合(同所)の富本尚作青果事業部長は「バナナは追熟後、傷みやすく、店頭での日持ちが悪いのが難点だった。消費地に近いところで加工することで、そうした問題も改善され、メリットは大きい」としている。

同グループは倉敷青果荷受組合、食品卸売業のクラカコーポレーションなど4社で構成。2010年の全体売上高は120億円、従業員290人(パート含む)。

(大河原三恵)



カラグループが新設したバナナの追熟加工設備。倉敷地方卸売市場

壊し、その跡地(803平方メートル)に整備した。輸入バナナを箱ごと入れ、コンピューターで温度や湿度を管理しながら追熟加工する。処理量は旧設備の室4棟と合わせ、年間約5千ト。総投資額は1億5千万円。5月から整備していた。

同グループで青果事業を担当する倉敷青